

たかけい学報

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌

The Bulletin of Takasaki City University of Economics



特集

地域政策学部 設立20周年

no. 95

CONTENTS

p.1-6

特集 地域政策学部設立20周年〈座談会〉
「地域政策学部の20年、そしてこれから」

p.7-8

「地域政策学部設立20周年に寄せて」
学科長寄稿
ゼミ生寄稿

p.9

新任教員紹介
経済学部 小林 徹 講師
地域政策学部 井門 隆夫 准教授

p.10

入学式
「高崎経済大学に入学して」
山田 拓郎さん

p.11-12

学生クローズアップ
地域政策学部ゼミナール協議会
荒木 陸さん

p.13

倶楽部紹介
ソフトテニス部 櫻井 拓馬さん
軽音楽部 四ノ宮 巧さん

p.14-15

たかけいINFORMATION

特集

地域政策学部設立20周年

日本で初めてとなる地域政策学部を設立してから20年、本学部はその分野において先頭を走り続けてきた。他大学において「地域」という名を掲げた学部が増加している中で、「地域政策」に先鞭をつけたリーダーであり続けるために、これまでの20年を振り返るとともに、新たな一歩を踏み出す。



「地域政策学部の20年、そしてこれから」

1996年に設立され、今年で20周年を迎えた地域政策学部。設立の経緯を知る大宮教授、地域政策学部長の佐藤教授に加え、本学部を卒業し社会で活躍する3名、現役学部生3名を招き、地域政策学部の「これまで」、「いま」、「これから」を読み解く。



細井ゼミ
松下 里美

富岡市役所
原田 知也

佐藤(公)ゼミ
中島 法子

沢藤電機(株)
蔣 雄軍

高崎市役所
田中 清明

佐藤(英)ゼミ
吉田 萌

地域づくり学科
大宮 登 教授

地域政策学部長
佐藤 公俊 教授

1. 地域政策学部の設立、変遷

大宮教授(以下「大宮」):1990年代に入って地方分権が唱えられ始め、そのさきがけとして、1996年に本学において日本で初めてとなる地域政策学部を設立しました。

佐藤教授(以下「佐藤」):それから20年経過しましたが、今では地方創生について多くの議論が行われています。地域政策学部が社会に果たす役割は、昔よりも現在のほうが大きくなってきているように思います。田中さんは地域政策学部の1期生ということですが、当時はどのような様子でしたか。

田中:自分が1期生ということで、授業内容についての情報などもなく、不安は大きかったです。父親が新聞記者で、行政とやりとりをしていたこともあったので、地域政策に多少の興味はあったのですが、地域政策学部でどのようなことを学べるのかということをもまったく理解していませんでした。

大宮:当時の地域政策学部の教員は、大雑把に表現すると、1/3が本学経済学部から異動した教員、1/3が他大学から招いた教員、残りの1/3は国や自治体など現場で働いていた実務家教員という構成でした。最初の2、3年は、教員



間でも地域政策学とはどのような学問か議論を重ねていました。

地域政策学部という言葉は、受験生や親御さんに馴染みがなく、設立当時は高校訪問をして学部について説明していました。10年ほどで定着していったように思います。

田中:私が学生の頃は、地域政策学といえば都市・農村問題を扱う学問でしたね。今では街づくりと言っていますが、当時は村おこしと呼んでいる時代でした。現行のシラバス(注:授業科目名、担当教員名、講義目的、成績評価方法、教科書や参考文献等、履修上必要となる情報を示した講義計画書。今年度のシラバスは全471ページ。)を拝見させていただきましたが、当時の5倍ほどの厚さになっていて、驚きました。

原田:私は2001年に入学したのですが、そのときは地域政策学の中に様々な分野がありました。1年生で基礎的なことを学び、学年が上がっていくにつれて、自分の興味のある分野を専門的に学んでいきました。

蔣:私は元々中国で公務員として働いていました。日本における地域づくりを学びたいと思い、2004年に外国人留学生として入学しました。地域政策学とはどのようなものだろうとの疑問はありました。当時アルバイト先で、どんなことを学んでいるのか聞かれましたが、なかなか一言で説明することができなかつたです。

中島:私は地域政策学部といえば、地域振興や政治のことを



学ぶ学問であるとイメージを持って入学しました。実際には、環境や福祉、マーケティングについても学ぶので、色々な視点から地域にアプローチするのだと驚きました。

大宮:2002年に地域づくり学科が開設されました。このときに地域政策学科では都市、農村、国際、経済・産業、政治・行政の5分野を、地域づくり学科ではビジネス、環境、福祉、文化、コミュニティの5分野を学ぶという枠組みを創りました。

佐藤:地域政策学科はアカデミック(学問的)、地域づくり学科はプラクティカル(実践的)との色分けをしたのですね。

大宮:その後、観光政策学科を作り、観光政策、観光経営、国際観光、地域振興を取り扱うことを決めました。地域政策学部では、学科ごとに特色のある研究テーマについて学ぶことができます。

佐藤:実際の地域政策学ではあらゆるものが研究対象になり得ます。このあたりについて、何か思うことはありますか。

松下:当初、私は政策について学びたいと思っていましたが、授業を受けるうちに、観光にも興味が出てきています。色々なことを学んでいくうちに、自分が本当に学びたいものが分からなくなってきています。授業は様々な分野に触れるきっかけにはなりますが、専門性を高めるためには、自分で勉強をしなければいけないという気持ちもあります。

吉田:私も、授業だけだとどうしても知識が広く浅くになってしまいがちだと思います。視野が広がるという点では、この大学に入ってよかったと感じています。本学で必修となっているゼミナールでは、興味のある分野を専門的に学べるので、有効活用していきたいです。



田中:将来の明確なビジョンを持って大学に進学する人はそう多くはないと思います。大学生活を過ごしていくうちに、自分の興味ある分野が出てくるのがほとんどです。私の頃は都市、農村に関する学問分野ばかりだったので、多くの領域に触れることのできる今の地域政策学部生が羨ましく思えます。

田中:将来の明確なビジョンを持って大学に進学する人はそう多くはないと思います。大学生活を過ごしていくうちに、自分の興味ある分野が出てくるのがほとんどです。私の頃は都市、農村に関する学問分野ばかりだったので、多くの領域に触れることのできる今の地域政策学部生が羨ましく思えます。



2. キャリア形成

佐藤:地域政策学部設立から20年が経過し、およそ6,000人の卒業生を輩出しています。本日お越しいただいている卒業生の皆さんは、就職に際してどのような考えをお持ちでしたか。

田中:現在は高崎で働いていますが、当初から公務員になろうと思っていたわけではありません。私は大学卒業後に大学院へ進学した後、民間のコンサルタント会社に勤めました。そこでは、経営に関するアドバイスなど短期的な視点が多く、関わった会社とその後どうなるか知ることができませんでした。公務員を志したのは、1つの組織に対し長期的に関わりたと思ったことがきっかけです。

原田:私は就職の際、民間企業と公務員で悩んでいました。富岡市に就職したきっかけは、大宮ゼミでの活動です。当時、大宮先生が富岡市民会議のアドバイザーをしていて、ゼミ生が地域活動に参加させていただく機会がありました。その活動を通じて富岡市が好きになり、目指すことにしました。富岡製糸場の世界遺産登録推進を担当し、フランスで勤務するなど、貴重な体験をさせていただいています。「グローバル」という言葉がありますが、地域単位での行動の積み重ねが、世界に繋がっていることを体感しました。

蔣:私の場合は母国での就労経験があったので、就職した会社では即戦力として期待されていたみたいです。仕事は中国企業とのマッチングをして



いますが、大学に来て日本の習慣を学べたことはよかったです。学生時代にゼミやサークルで多くの企画書を作る機会があったので、その経験も役立っています。学生時代から取り組んでいる故郷(中国湖南省蔣家村)に植樹をする活動も、10年間継続して約10万本の木が育っています。

佐藤:現役の学生のみなさんは、将来の進路についてどのように考えていますか。

中島:私は、小さいころから将来の夢が公務員であり、大学進学時も将来の夢から逆算して、地域政策学部を選びました。授業で公務員として働く方の話を聴く機会があり、世間で

は安定しているというイメージですが、実際には大変であるということがわかりました。その話を聞いた後でも、公務員になりたい気持ちは変わっていません。公務員になると3年ほどで部署が変わると聞いています。その都度、新しいことを覚えるのは大変なので、多くの分野に触れることができるこの学部を選んだことは、正解だったと思っています。

松下:私は、入学の際に持っていた目標が変化してきています。今、一番大事にしているのは、多くの人に出会うということです。多様な人に触れ、考えを知るなかで、自分の価値観も変わりつつあります。残り2年の大学生活で、自分の価値観を形成し、将来の就職へ繋げていきたいと考えています。



吉田:私も、まだ就職に関して明確なビジョンは持っていません。現在、ゼミナールで都市地理学における住宅政策について学んでいます。それがすごく面白いので、活かせる職業に就ければいいと考えています。その中の選択肢として、公務員も考えています。今日の座談会での諸先輩方のお話を参考に、残りの大学生活を最大限充実させようと思っています。

佐藤:就職状況に目を向けると、一昨年度卒業生の公務員就職者数が本学部57人(経済学部42人)*、昨年度は本学部72人(経済学部45人)と、公務員就職者がたいへん多くなっています。公務員への就職者数の多さは、何か理由があるのでしょうか。

大宮:公務員は日本全国に大勢いるのに、公務員を対象とした学部、カリキュラムがないことには疑問がありました。医者を目指すなら医学部、弁護士を目指すなら法学部といったような体制が、公務員にもあっていいのではと思ったのです。そのため、総合政策ではなく、地域政策を掲げました。当初の狙いとして、地方公務員の養成があったことは事実です。地方自治体の合併などで公務員の募集が減っている中、この数値は見事ですね。

佐藤:本学部では、結果的に公務員への就職が多くなっていますが、公務員への就職を推奨しているわけではありません。それでも、公務員を目指す学生がこれほど多いのは、授業を通じた地域貢献に対するポリシーマインドの形成が上手くいっているということですね。

*地域政策学部は教員2名、経済学部は教員1名をそれぞれ含めた人数です。



田中:地域づくりに関わることができる仕事は、公務員だけではなく増えてきています。地域政策学部で学んだマインドは、職種、地域に関わらず役立つと思います。

大宮:地方創生の一環で、地方大学を活用した雇用創出・若者定着が推奨されていますが、本学の場合は全国各地から学生が集まっており、就職先の地域も多様化していますね。地域政策学部で学んだ人材が全国各地に戻って活躍していることを考えると、ワクワクしますね。

3. これからの地域政策学部

佐藤:先ほどから申し上げている通り、地域政策学部は20年で6,000人の卒業生を輩出してきました。これからの本学部で期待することとして、どのようなことが挙げられますか。

大宮:学部で期待するのは、学び続ける基礎力を身に付けることです。社会に出て働くとは、学び続けるということです。学生は実感が湧かないかもしれませんが、就職してから学ぶことは、学生時代の勉強よりもはるかに多いです。そこで困らないように、社会人基礎力として、学び続ける力というものを定着させてほしいです。

田中:学生時代に覚えた知識は、なかなか更新することができず、古くなりがちです。時代に依って考え方が変化していくのは当然なのですが、働きながらではそういった機会を作ることも限界があります。市立大学であったという経緯も考えれば、公務員の人材育成拠点としての側面があればとてもありがたいです。



原田:私が大宮ゼミにおいて富岡市で活動をしていたとき、高経生というブランドが確立されており、市民権を得ていました。このようなフィールドワークの機会は、現状では所属ゼミナールなどに大きく左右されると思います。座学では得られないことも多くありますので、全学的な取り組みとして、実務体験を取り入れることができれば、面白いと思います。

大宮:20年前に日本で初めて地域政策学部を設立してから、その分野で先頭を走り続けてきました。他大学で同じような名称の学部も増えてきていますが、先鞭をつけたリーダーとしてあり続けるために、次のステップへと踏み出さなければなりません。

佐藤:そのためには、余所にはない地域政策学部としてのノウハウを有効活用していかなければなりませんね。卒業生の6,000人という数字も、短期間で積み上げることは決してできません。大学の宝は卒業生、学生といった「人」です。現在の宝から未来の宝へ、何か伝えることのできるプログラムを考えていきたいですね。卒業生の皆さんから、現役の学生へ伝えたいことは何かありますか。



蔦:公務員として働くのも素晴らしいことですが、民間企業に身を置くというのもとてもいいものです。民間企業の一歩の目的は利益追求です。利益をあげるためには、自分一人ではどうにもならないことがほとんどです。そういった厳しい状況を経験することで、大きく成長することができます。また、就職活動は厳しいと言われていますが、悲観的にならずに、今できることを精いっぱい楽しんでほしいです。

田中:今、蔦さんからありましたが、仕事は決して一人ではできないものです。プレゼンテーションで資料を読み上げるだけの人がいますが、これは大きな間違いです。プレゼンテーションとは、相手に動いてもらうということです。ここを理解していると、話しぶりが大きく変わってくると思います。

原田:現役の学生には、本物の文章読解力を身に付けてほしいです。各省庁や自治体から発出される通知を読んでもらうとわかるのですが、非常にわかりにくい文章で書かれています。それを自分なりに理解していないと、間違った行動を選択してしまうことになります。難しいことを難しいまま他人に伝えることは容易ですが、難しい文章を簡単に伝えることは、自分で本当に理解していないとできません。この辺りを意識してほしいと思います。



また、前述したように、私はフランスに3年間勤務する機会がありました。当時はフランス語にまったく理解がなく不安もありましたが、せっかくのチャンスだと思い、話を受けることにしました。学生たちにも、目の前にあるチャンスを逃さずに、積極的に挑戦してほしいと思います。

佐藤:本日は、貴重なお話を聞かせていただき、大変ありがとうございました。私自身も考えさせられることが多く、新たな発見がありました。今後、地域政策学部の卒業生が、社会の中核を担う年代になります。社会のリーダー育成に、本日の座談会を活かしていきたいと思っています。

2014年度 公立大学学部別公務員就職者数*

大学名	学部	就職者数	公務員就職者数
高崎経済大学	地域政策学部	420	55
高崎経済大学	経済学部	401	41
青森公立大学	経営経済学部	277	32
埼玉県立大学	保健医療福祉学部	382	30
首都大学東京	都市教養学部	610	110
横浜市立大学	国際総合科学部	551	46
都留文科大学	文学部	581	63
愛知県立大学	教育福祉学部	83	39
名古屋市立大学	経済学部	210	47
名古屋市立大学	人文社会学部	154	36
大阪府立大学	経済学部	246	34
大阪府立大学	人間社会学部	161	33
大阪市立大学	法学部	134	54
大阪市立大学	経済学部	176	32
北九州市立大学	法学部	176	39
長崎県立大学	経済学部	386	41
熊本県立大学	総合管理学部	259	33

*[2016(平成28)年度大学の真の実力情報公開BOOK](旺文社ムック2015年9月)に掲載されたデータをもとに、公務員就職者数30人以上の学部(公立大学のみ)を抽出したものです。

地域政策学部 都道府県別 公務員就職者数一覧

都道府県	都道府県庁	政令市中核市	その他市町村	警察・消防
北海道	4	1	5	2
青森県			2	
岩手県	3		9	2
宮城県	1	1	1	4
秋田県			4	1
山形県	1		9	
福島県	3	1	9	2
茨城県	1		13	4
栃木県	2	9	25	7
群馬県	25	48	78	51
埼玉県	3		17	6
千葉県		1	4	4
東京都	11 (特別区職員含む)	1	1	28
神奈川県	1	1	2	1
新潟県	3	2	6	2
富山県	1	1	6	2
石川県	1		2	1
福井県			3	1
山梨県			4	
長野県	1	2	24	2
岐阜県	1	1	1	
静岡県	5	1	10	1
愛知県	2	2	5	6
三重県			1	
大阪府			1	
鳥取県			1	
岡山県		1		
徳島県				1
香川県			1	
愛媛県			1	
高知県		1		
熊本県		1		
宮崎県				1

※1 卒業時に提出された「進路届」調査。よって、未届者及び卒業後に公務員採用となった者は含まない。

※2 国家公務員は上表に含まないが、国家総合、国家一般ほか国家公務員となった卒業生は合計60人(未届者及び既卒者含まず)。

「地域政策学部設立20周年に寄せて」

学科長寄稿



地域政策学科長
新田 浩司

「地域政策の パイオニアとして」

1996年地域政策学部が設立された当初は、地域政策学科しかなく、初年度は1年生だけで、未だ開講していない講義もありました。私は設立から本学部にお世話になっていますが、第1期生を無事社会に送り出しほったことを今でも鮮明に覚えています。

わが地域政策学部は、日本で最初に地域政策を冠した学部であり、地方分権時代の到来を受けて、地域社会の発展を担うリーダーの育成を目的に設立されましたが、その目的に違わず、現在まで日本全国の多くの分野において卒業生が活躍しています。

地域が抱える多様な問題に対応するため、本学部には幅広い学問分野から研究者が集まり、学生に対する教育体制を整えています。学部設立当初は、そもそも地域政策とはなにか、地域政策学とは何かについて、教員同士で研究会を催したりもしました。また、新設学部ということで、学部教員全員による高校訪問や企業訪問を実施し、学部の知名度の向上に努めてきました。

地域政策学部が設立されて、早や20周年を迎えましたが、近年、他大学においても地域政策学部と類似の学部の設置がなされ、あるいは予定されており。これは、地域に有為な人材に対するニーズが増々進んでいることの証左でもありと考えられますので、地域政策のパイオニアであり実績のある本学部の果たすべき役割は増すものと思われ。現在では、学生数も増え、地域政策学科、地域づくり学科、観光政策学科の3学科体制になりましたが、学科同士切磋琢磨して、学生に対する教育の質の向上に励みたいと考えています。

地域政策学科の教育目的は、国内外の地方分権や地域政策に関する高い知識と政策立案能力を有し、都市と農村等の地域振興を中心的に担う人材を育成することにあります。そのため、今後とも、この教育目的をさらに推し進め、地域の発展に寄与する人材を多く輩出していきたいと思っております。私も微力ながら努力してまいります。今後の学部の増々の飛躍を心より願っています。



地域づくり学科長
坪井 明彦

「母校に対する 誇りを育む」

地域政策学部は、1996年に設立され、昨年度末で満20年が経過したわけです。私は1993年に本学の経済学部に入学したので、4年生になった時に、地域政策学部の最初の1年生が入学してきました。その時は、「地域政策とはどんな学問なのだろう」という漠然とした印象しかなく、まさか自分が地域政策学部の教員になろうとは夢にも思いませんでした。しかし縁あって、2003年の地域づくり学科設置の際、教員として母校に戻ることに。それから今年で14年目を迎えています。

ところで、私の講義科目で「地域マーケティング」という科目があります。地域のブランディングやマーケティングを内容としています。「地域ブランド力」というと、茨城県や群馬県など北関東のブランド力の低さが話題となることがあります。北関東のブランド力の低さは、東京に近い埋没しているということや、東京という大市場に近い全国に向けてプロモーションする必要性が低かったという要因がありますが、それ以外にも、地域に対する愛着度や自慢度が低いことも影響しています。

同じように、「大学のブランド力」を考えると、大学のブランド力には伝統や知名度が大きく影響していると思えますが、それだけでなく、学生や卒業生が母校に愛着だけでなく誇りを持っているか否かということも大きく影響しているように思えます。では、どうしたら母校に誇りを持っているのか？学生に質問をすると、「卒業生が社会で活躍しているそれが知られている」というような意見が多くありました。芸能、スポーツ、ビジネスなどさまざまな世界で活躍する有名人の出身地や出身校の人々が彼ら・彼女らを誇りに思うということは、一般に納得できます。そうであれば、社会で活躍できる学生を育て、卒業生の活躍を大学の内外に伝えていくということが、母校に対する誇りを育むことにつながるのだと思います。

地域政策学部は今春で17期目の卒業生を送りました。初期の卒業生の中には職場でも重要な役割を担っている人も多いでしょう。彼ら・彼女らの活躍を大学の内外に伝え、また社会で活躍できる学生を育てるために、今後も努力していきたいと考えています。



観光政策学科長
小牧 幸代

「現場主義の 教育研究」

地域政策学部のなかで最も若い観光政策学科は、観光に特化した切り口から地域社会への貢献のあり方を考える学科として、先に設立された他の2学科と同様、ときどきの市政や社会経済情勢を反映しつつ、目の前にある地域社会の未来を託されて誕生しました。

地域政策学部を構成する3つの学科は、地域振興という同一の目標に向かって、異なる角度から、それぞれが得意とするアプローチの仕方、個性的な教員と潜在力をもつ学生が、大学の教室や研究室と地域社会の現場や人びととのあいだを頻りに行き来し、問題解決の糸口を見つけるための調査研究を進めています。大学と地域社会、教員・学生と地域の人びと、学術的な理論研究や事例分析と当該地域の常識すなわちローカルな知識、これらは両方がそろってはじめて問題の解決のみならず問題の発見にも結びつきます。現場に行くことがいかに大切かは容易に想像できます。

観光政策学科の場合、地方都市や過疎化が進んだ

農山村などの地域社会を、観光によって活性化するための方法を探求していますが、めまぐるしく変化する国内事情と国際関係のなかでは、過去の正解や他の自治体の成功例が、そのまま適用できるはずもなく、新しい正解や成功例は、何度も現場に足を運ぶ以外に発見・発掘、そして創造できないでしょう。そのため、本学科ではどの教員も徹底的な現場主義の立場をとり、卒業論文の作成にはフィールドワークを重視します。とはいえ、フィールドワークの技術は一朝一夕に身につくものでもありません。また、何度も現場に行き、異なる背景をもつ人たちの斬新な感性に触れ、そこからアイデアを引き出すためには「人の話を聞く技術」も必要です。

地域政策学部設立20周年は、同時に観光政策学科の10周年でもあります。始まったばかりの新しい10年の最初の年を、祝いつつも気を引き締め、現場主義の理論と実践を極める教育研究に、学科教員一丸となって挑戦していく所存です。

ゼミ生寄稿



地域政策学科 3年
若桑 康平
(新田ゼミナール所属)

「行政法の 理解を通して」

私は自分の住む地域が持っている魅力を多くの人たちへ発信する方法や、地域の活性化を進めるためには、自治体と市民がどうするべきかに興味を持っていました。その他にも、日本の地域が抱える、少子高齢化・過密と過疎による空き家問題・生活保護の不正受給が関わる社会福祉などの様々な問題や、国内のみならず、国際社会における問題の解決について考え、多様に存在する問題点それぞれの解決策などを自ら考え、立案できるような人間になりたいと思い、高崎経済大学への入学を決めました。

私が所属する新田ゼミでは、行政法について学んでいます。日本に存在する法律の約3分の2が行政法に分類されるほど、行政法は私たちの身近にあるものです。例えば、私たちが普段使っている道路を安全に通行するための交通取締りや、車の運転をする際に運転免許証が必要となるのは道路交通法、水道の蛇口をひねれば水が出てくることは水道法によるものであること、鉄

道事業法、自衛隊法、警察法など、日常にある当たり前のように思えることも、すべて行政法が関わっています。ゼミ内では行政法のテキストの輪読を行い、また、行政法に関する裁判の判例を、グループや個人で研究をしています。行政法が関わる問題について知識を深めながら、4年生で完成させる卒業論文に向けてゼミ生と共に学んでいます。

来たる2020年の日本で開催される東京オリンピック・パラリンピックなどを始めとし、世界が日本に注目する機会が増え、日本は今まで以上に国際化が進みます。それに合わせて、日本の魅力や地域の魅力を世界に発信することや、日本を訪れる様々な国の人たちに合わせた行政のあり方も重要な問題となってきます。世界から寄せられる、日本への期待に応えるためにも、将来を担う人材として、高崎経済大学の地域政策学部で学んできたことを十分に発揮できるような社会人を目指し、地域社会に貢献したいと思っています。



地域づくり学科 3年
中村 夢乃
(坪井ゼミナール所属)

「目指せ 『地域リーダー』 たる銀行員」

私は、高校2年生の時、自分が中心メンバーとして取り組んだ文化祭をとおして、自分の考えたイベントやアイデアで、クラスメイトや文化祭に来てくださった方が楽しんでくれたことにやりがいを感じ、将来は人々を盛り上げる側に立っていたいと思うようになりました。その後、進学を控え、いろいろな大学を調べるうちに、高崎経済大学の地域政策学部は、地域社会の発展を担う「地域リーダー」の育成を目的にしていると知り、ここでなら自分の夢を実現できると感じ、この学部を目指すこととなりました。

私は現在、地域づくり学科の坪井ゼミナールに所属しています。このゼミでは、マーケティングの視点から物事を考える力を養っています。また、日経ビジネス主催のプレゼンテーション大会に参加したり、渋川市と連携した市街地活性化事業を行ったりと、実践的な活動にも力を入れていて、大変やりがいのあるゼミだと感じています。

私は将来、大学で学んだことを活かして、地域の商店街や企業、大学、団体との間を取り持ち、地域課題を解決に導くことができる銀行員を目指しています。地域課題解決のための資金供給を行い、地域の様々な団体とネットワークがある銀行に大きな可能性を感じています。銀行による地域貢献は、地域経済の活性化、活性化につながり、さらには銀行の本来業務の拡大にもつながると考えています。私は、地域リーダーたる銀行員になるという目標の達成に向けて地域活動への積極的な参加と、学業に励んでいます。



観光政策学科 4年
山本 耀介
(小牧ゼミナール所属)

「地域振興に 役立つ社会人」

私が高崎経済大学を志した理由は2つあります。ひとつは、地域政策学部で地域振興につながる理論や方法をしっかり学んでみたいと考えたからです。もうひとつの理由は、部活動です。私は、高校時代からラグビーを始め、大学でも続けたいと考えていました。本学のラグビー部は全国地区対抗大会の関東2区に所属し、精力的に活動していることが分かり、私もこのチームに入ってプレーしたいと強く思ったのです。

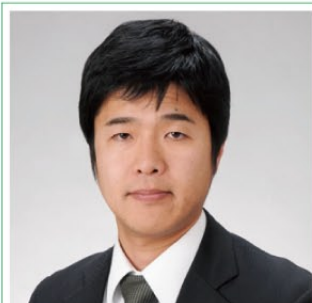
ラグビー部では先輩に恵まれ、充実した大学生活を開始しました。2年生の前期にゼミナールを決める際も、ラグビー部の先輩がキーパーソンとなりました。私は先輩のアドバイスで観光政策学科の「小牧ゼミナール」に入り、文化人類学の観点から地域振興と観光のあり方について調査研究を進めています。

小牧ゼミでは、4年次の卒業論文だけでなく、3年次の進級論文でも、各自が好きなテーマで研究をすることができます。私の進級論文のテーマは「世界遺産に登録されて、地域社会や地方自治体は本当に幸せなのか」

でした。3年次の最初の課題、「自分史」のパワーポイント発表で、テーマとの出会いから現在に至るまでの経緯を整理して発表しました。そのあとの課題をクリアするため、関連文献を読んだり、日本の世界遺産を現地調査したり、アンケートやインタビューをしたりして、2次資料だけでなく1次資料にもウェイトを置いた事例研究をおこないました。ゼミでの発表は、ゼミ生との活発な議論や先生からの貴重な助言を得るための非常によい機会となりました。

現在私は就職活動中ですが、どこの企業で働くことになっても、地域政策学部で学んだことはきっと活かされると考えています。「自分の身近なところで問題を見つけ、現場に足を運んで人から話を聞き、自宅に持ち帰って整理し、発表を通じて分析の精度を高めていく」というプロセスを意識的に身につけ、近い将来、地域と住民の役に立つ社会人になれるよう、今後も努力していきたいです。

新任教員紹介



経済学部 講師
小林 徹



略歴 ●出身：東京都
●最終学歴：慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了 博士(商学)
●職歴：転職支援会社、民間シンクタンク、政府系研究機関を経て現職

専門分野 労働経済学。応用計量経済学。特に、採用・就職の事前に、人と組織の相性を評価する方法について研究しています。

趣味・特技 フラメンコギター：20代の頃レッスンを受けましたが才能なく、上達しませんでした。
餃子作り：大学生の時「餃子の王将」でアルバイトをしました。家でもよく作ります。
昆虫やカエルの採集と飼育：息子との遊びから。今は自分のほうが楽しんでいる状態です。

座右の銘 「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたき者には開かれます。」(マタイの福音書7章)

今後の抱負 教育と研究活動はもちろんですが、成果をあげるだけでなく、労働経済学の面白さを多くの人に伝えることができると考えています。結果として、実社会(特に企業の採用活動)に労働経済学の考え方やノウハウがより普及すると喜ばしく思います。

学生へのメッセージ できるか、成功するかどうかを考える前に、できる、成功することを前提とした場合に何がやりたいのかを考えてください。そして今好きなこと、やりたいことにどんどんチャレンジしてください。



地域政策学部 准教授
井門 隆夫



略歴 ●出身：東京都
●最終学歴：上智大学文学部社会学科
●職歴：旅行会社、観光シンクタンク、関西国際大学人間科学部経営学科准教授を経て現職

専門分野 日本の観光イノベーションについて研究しています。

趣味・特技 趣味と仕事が入り混じっていますが、全国を旅して、人や宿と出会い、温泉に入り、酒を飲む日々が大好き。時々球場に出没して応援をする以外は、腰を落ち着かせるのが苦手なのでご迷惑をおかけします。

座右の銘 臨機応変、自律自強。ゼミのテーマにもしている「臨機応変」とは柔軟性そのもの。時として自分を周囲に合わせていくことで、セレンディピティ(偶然を自分のパワーにする力)が身につけていく気がします。

今後の抱負 現場に世の中を変えていくシーズが眠っている限り、体が動かなくなるまではあちこちに出没。様々なメッセージを発信して自分の果たせる役割を追求しようと思っています。

学生へのメッセージ 大学時代は、いつの世でもいろいろな喜怒哀楽が一気にやってくる濃密な時間。常に「好奇心」をもって多くの出会いを楽しんでください。時々、一緒に旅に出ましょう!

高崎経済大学に入学して

地域政策学部1年 山田 拓郎

私は平成28年度の新入生として高崎経済大学に入学しました。この大学は全国各地から学生が集まっています。学生の出身地は日本国内だけに留まらず、外国人留学生も多く在籍しています。外国籍の母を持つ私にとって、留学生は身近な存在であり、すでに多くの友人ができました。留学生の友人の一人から、「なぜ日本に来たのか」「日本でどんなことがしたいのか」という興味深い話を聞くことができ、非常に刺激になりました。私自身も、大学生活での目標を明確にして、日々を過ごして行こうと決意しました。

私は地域政策学部に在籍しており、現在の講義では地域政策学の基礎的な内容を学んでいます。高校までの暗記中心の勉強とは違い、大学の講義では「なぜ、そのような問題がその地域で起こっているのか」「なぜ他の地域で成功した試みがこちらの地域では成功しないのか」など、自ら考える機会が多く、非常に新鮮な気持ちで講義を受けています。これからの講義でもっと自分の知識を深め、様々な地域問題の解決法を考察していくことができると考えると、期待で胸がふくらみます。

サークル活動では、入学前から気になっていた「あすなる」という団体に参加しました。主な活動として、高崎市中心街で学生主体による「cafeあすなる」の経営を行っています。ここでの活動を通して、高崎市の地域づくり、地域発展を手伝っていきたくと考えています。また、中学からずっと続けていたバンド活動は大学でも続けることができ、新しいバンドメンバーとの出会いがありました。新たな人との出会いは、自分が大きく成長できるチャンスだと思います。

様々な学生が集まる高崎経済大学で、新しい価値観を発見し、勉学、人間性ともに大きく成長していきたいです。

入学式



■平成28年度 学部入学状況

()内は女性数で内数

入学区分	経済学部 (定員480人) 一般380人 推薦100人	地域政策学部 (定員455人) 一般300人 推薦95人	合計 (定員935人)
一般(推薦含む)	498 (145)	421 (173)	919 (318)
私費外国人留学生	33 (12)	20 (6)	53 (18)
社会人	1 (0)	1 (1)	2 (1)
帰国生徒	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2年次編入・転入	7 (4)	10 (8)	17 (12)
3年次編入・転入	0 (0)	26 (18)	26 (18)
計	539 (161)	478 (206)	1,017 (367)

■平成28年度 大学院入学状況

()内は女性数で内数

入学区分	経済・経営研究科 (定員24人)		地域政策研究科 (定員25人)	合計 (定員49人)
	現代社会経済システム専攻	現代経営ビジネス専攻		
博士前期課程第1期・秋季日程	2 (0)	2 (1)	4 (2)	8 (3)
博士前期課程第2期・春季日程	1 (0)	3 (2)	4 (0)	8 (2)
博士後期課程	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
計	10 (3)	8 (2)	8 (2)	18 (5)

学生クローズアップ



地域政策学部
ゼミナール生総会

地域政策学部
ゼミナール協議会
地域政策学部3年

荒木 陸

全力で支援することが、自分自身の成長になる

“地ゼミ”とは

地域政策学部ゼミナール協議会は、2005年10月27日に地域政策学部初の代表機関として設立されました。設立当初、本協議会は、高崎経済大学地域政策学部の学生生活向上を目的とし、「各ゼミナール間の交流を図りその活動を支援、活発化させること」、「ゼミナール選択時の情報提供」、「地域政策学部生の代表組織として大学内の各組織への働きかけ」の3つを主な活動としておりました。第12期となった現在では、これらの3つの活動に加え、「就活生のための就職支援事業」にも力を入れております。地ゼミには、総務局、企画局、財務局の3つの局があります。総務局では、大学事務や他団体からの連絡事項などを各ゼミの代表者に伝える、代表者会を毎月開催しております。企画局では学内で行われるプレゼンテーション大会の運営や、今年度、関東学院大学で開催されるインナー大会の加盟校として、企画に携わっております。財務局は地ゼミのお金について管理し、年度末には決算書の作成と報告をします。さらに、役員それぞれで各企画を分担しており、局関係なく、企画を運営します。地域政策学部20周年という節目の年にあたり、歴代の先輩方が築き上げてきたこの地域政策学部ゼミナール協議会を第12期ではさらに発展させていきます。

新しい挑戦

私たちは、様々な企画を運営しております。大きな柱として、学術支援と就職活動支援に分類されます。学術支援事業では、新入生のための「履修相談会」、2年生のための「ゼミナール説明会」、各ゼミナールの研究を弁論方式で競い合う「プレゼンテーション大会」などを行っております。就職活動支援事業では、就活のための情報提供の場である「就活セミナー」、就活用のメイクの仕方を学べる「メイクアップ講座」、首都圏で開催される合同企業説明会への送迎

バスを手配する「合説バス事業」などを行っております。これらの企画は、学生の必要とする活動を協議して立案したものです。そのため、前例を踏襲するだけではなく、必要に応じて新しい企画も積極的に立案しております。その新しい企画として挙げられるのが、昨年度から企画運営が開始された「就活セミナー」です。これは就職活動に対する不安のある学生からの声を反映して企画したものであり、今年度も学生の声を反映させた内容で行われます。

何事も「真剣」に

私たちは、みなさんが有意義な学生生活を送れるように全力で支援していきます。活動において、大切にしているのは「真剣さ」です。誰かが真剣にやっている姿をみれば、「自分も何かやってみよう!」と思うのではないのでしょうか。私たち地ゼミは、そんな姿を目指します。何かに熱中したり、チャレンジしたり、みなさんの学生生活にはあらゆる可能性が潜んでいます。磨き上げられた剣のように、みなさんの可能性は光り輝いています。その可能性の発見の一助となるように、精一杯努めていきます。

結びに

地ゼミを通じ、これまでに巡り合った様々な人に、この場を借りて感謝申し上げます。大学という学びの場において、勉学だけに留まらず多くのことを学ぶことができました。今年度すべてが、12期会長としての私の挑戦です。私にとって、地ゼミの活動は、多くの発見をもたらした成長の糧となるものです。日々の活動の積み重ねは、私自身の成長に欠かせません。この成長が地ゼミの発展に寄与するとともに、みなさんの学生生活の向上を促すものとなれば幸いです。真剣に熱心に、そして楽しく、地ゼミの挑戦はまだこれからです。



▲総会風景



▲合説バス事業



▶合説バス事業



▲プレゼンテーション大会



▲就活セミナー



▲真剣な話し合い



▶履修相談会



倶楽部紹介

Club Introduction

◆ 体育会 no.78

ソフトテニス部

地域政策学部3年 櫻井 拓馬

私たちソフトテニス部は男子35名、女子10名の計45名で活動しています。男子部は関東学生ソフトテニスリーグで念願の5部に昇格しました。女子部も男子に負けない元気のよさでリーグ昇格を目指して日々練習に取り組んでいます。活動としては火・水・金曜日は放課後練習、日曜日は午前9時から練習をしていて、長期休暇には「1日練習」も取り入れています。

ソフトテニス部の特徴は大きく分けて2つあります。1つ目はソフトテニス初心者から高校時代にインターハイに出場した選手まで、様々な部員が在籍しているところです。そのため経験豊富な部員が、練習中にアドバイスをしている光景を頻繁に見ることができます。練習は初心者も経験者もみんなが上達できるようなメニューを組み、全体の技術アップを目指しています。2つ目の特徴は他大学と比べて部員数が多いことです。そのため大会の応援も他大学とは規模が違い、「応援で選手を勝たせたい」のが高崎経済大学ソフトテニス部のスタイルです。

ソフトテニス部は「ラケットショップ BERRY」さんの協賛をいただき、毎年「高経杯」という大会を主催しています。対象は群馬県内の高校生で、毎年たくさん的高校生に参加していただいています。高経杯の開催の意図は3つあり、1つは高校生に試合の経験を積んでもらうことです。2つ目は高校生と大学生の交流の場を作ることです。3つ目が高崎経済大学について知ってもらう機会を作ることです。この「高経杯」が群馬県の高校生のパフォーマンスの向上に少しでもつながればと考えています。

夏には「北関東5大学リーグ」が控えています。昨年は格上の大学がいるなかでも優勝することができたので、2連覇目指して頑張ります。また11月には「関東学生ソフトテニス秋季リーグ」がありますので、昇格を目指して男女部ともに頑張りたいと思います。チーム一丸の高崎経済大学ソフトテニス部らしいテニスをしていこうと思いますので、これからも応援のほどよろしくをお願いします。



◆ 文化サークル協議会 no.79

軽音楽部

経済学部3年 四ノ宮 巧

私たち軽音楽部は、新入生を含め約50名で活動を行っています。主に使用している楽器はギター、ベース、ドラムになります。そこに歌やキーボードなど、様々な要素を加えて演奏しています。演奏しているジャンルも多岐に渡っており、枠にとらわれることなく活動しています。高崎で行われたドラムの大会で優勝した部員もいます。

主な活動としては、毎週月曜日に行っている部会です。そこで今後の予定や、活動方針について話し合っています。普段の練習ですが、部員全員で集まって練習をするということはありません。部員の中でバンドを組んでおり、それぞれのバンドで定期演奏に向けた練習をするので、個人の練習がとても大事になります。

年間の主な行事として、定期演奏を年間で約6回行っています。それに加えて、他大学との合同ライブも企画、運営しています。大学内だけでなく同じメンバーの演奏しか聴けないので、自分たちの技術向上につながりません。他大学の演奏を聴き、時には「他大学がどのようなことを心掛けて練習をしているのか」など、積極的に意見交換を行い、自分たちの技術向上に役立てています。

また、夏休みには長野へ合宿に行きます。長野の涼しさの中、1日中音楽漬けというのは、音楽好きとしてはたまらないよさです。

個人的には、1年の中でも学祭が一番楽しんでいると感じています。経大生と一緒に盛り上がることはもちろん、野外で演奏する気持ちよさは、その場に立ってみたいとわからないと思います。

軽音楽部の部員は、音楽が好きなたちばかりです。これからもっと、この部活を活気あるものにしていけるよう、頑張っていきたいと思っています。



たがけい INFORMATION

キャリア支援

キャリア支援センターからのお知らせ

キャリア支援センターでは、就職支援・キャリア形成のため様々なガイダンスや講座を開催しています。主に3年生が対象ですが、1年生から参加できるセミナーもあります。積極的な参加お待ちしております。

●お問い合わせ＝キャリア支援センター 電話027-344-6263

6/22(水)	17:45～19:15	FMぐんまによる話し方セミナー 全3回(ほか7/6、7/13)
7/4(月)	16:00～17:30	SPI試験(言語・非言語) Web体験受験会 全3回(ほか7/6、7/8)
7/13(水)	16:00～17:30	社会人基礎力養成講座「チームワーク編」
8/8(月)	16:00～17:00	就活リスタート講座①
9/28(水)	17:45～19:30	就職ガイダンス①「自己分析のやり方」
10/5(水)	17:45～19:30	就職ガイダンス②「業界研究・企業研究のやり方」
10/8(土)	終日	OBOGによる就職相談会 in 東京
10/12(水)	16:00～17:00	就活リスタート講座②
10/19(水)	16:00～17:30	日経新聞の読み方講座～ES・面接に効く!経済・企業情報の収集と活用～
10/19(水)	17:45～19:30	就職ガイダンス③「エントリーシートの書き方」
10/20(木)	17:45～19:15	特別企画講座 柳本新二先生による就職対策講座～SPI試験対策～
10/24(月)	17:45～19:30	ビジネスマナー研修
10/26(水)	17:45～19:30	Uターン志望者向け就職セミナー
11/9(水)	17:45～19:30	女子学生向けセミナー 全2回(ほか11/16 同時開催)
11/10(木)	16:00～17:30	東京証券取引所による業界研究セミナー
11/15(火)・17(木)	17:45～19:45	「就職活動実践講座」開講日 全5回通しでの参加(火曜日・木曜日コースあり)
11/16(水)	14:00～16:30	Uターン就職フェア～長野・栃木・北海道編～
11/24(木)	17:45～20:00	公務員志望者向けセミナー
11/26(土)	13:00～	OBOGによる就職相談会 in 高崎(旧:就業力育成ネットワーク)
11/28(月)～12/2(金)	12:30～16:30	業界セミナー

図書館

日曜・祝日を開館

平成28年4月より、高崎経済大学図書館は日曜・祝日も開館しています。

月曜～土曜日 9:00～21:30
日曜・祝日 9:00～17:00
春・夏・冬休み期間 9:00～17:00



パソコンコーナーリニューアル

2階パソコンコーナーに本学の学生専用のパソコンが48台設置され、自由に利用することができます。ご不明な点は図書館員までお問い合わせください。

利用者サービス内容

学部生及び大学院生のサービス内容は以下のとおりです。たくさんのご利用お待ちしております。

◆ 図書の出貸

利用者	貸出冊数(上限)	貸出期間(上限)
学部生	10冊	14日
大学院生	40冊	30日

◆ ILLサービス料金
(他館への文献複写、
図書貸借依頼)の
大学負担金額(年額)

利用者	大学負担金額
学部生	6,000円
大学院生	10,000円

●お問い合わせ＝研究グループ図書館チーム：電話027-344-6266

高校生向けイベントのお知らせ

オープンキャンパスを開催します

オープンキャンパスは、本学に興味をもっている高校生やその保護者などを対象にキャンパスを開放するイベントです。大学の教育方針の説明や模擬授業、ゼミ展示などを行っていますので、ぜひ、お越しください。

- 期日＝7月17日(日)
8月7日(日)
- 時間＝10:00～15:30
(9:30から受付開始)
- その他＝高崎駅から臨時バスを運行しますので本学ホームページをご覧ください。



県外進学説明会の開催について

本学への志願者が多い地域の受験生などを対象に、本学の説明や入試に関する個別相談を本学主催で行います。

日時	開催都市名	会場名
7月 9日(土) 14:00～16:00	長野市	JA長野県ビル
7月24日(日) 14:00～16:00	宇都宮市	栃木県総合文化センター
9月25日(日) 10:00～12:00	仙台市	ホテルJALシティ仙台
10月 2日(日) 10:00～12:00	名古屋市	キャッスルプラザ
10月 8日(土) 10:00～12:00	富山市	ANAクラウンプラザホテル富山

一日大学体験DAY(要事前予約)

本学で実際に行われている授業を現役学生と一緒に受講し、大学の日常を体験します。大学案内やホームページからの情報だけではなく、自ら体験することで、本学が自身にとってより良い学び場であるかを確認できます。

- 期日＝10月28日(金・群馬県民の日)
11月14日(月・埼玉県民の日)
- 対象＝高校生(既卒者含む)、保護者、教育関係者

各イベントのお問い合わせ 企画調整室入試チーム：電話027-344-6265

同窓会支部総会のお知らせ

今年度各地で開催される、同窓会支部総会の今後の予定をお知らせします。出身県、近県の方はぜひご参加ください。在学生も大歓迎です。

●お問い合わせ＝学生支援チーム(同窓会事務局):電話027-344-6262

支部	開催日	開催場所・時間	
桐生支部	4月23日(土)	一婦美 17:00～	済
栃木支部	5月21日(土)	ホテルサンルート佐野 17:00～	済
京滋支部	6月11日(土)	松井本館 16:00～	済
本部	6月18日(土)	高崎ビューホテル 18:00～	済
群馬支部	6月18日(土)	高崎ビューホテル 18:00～	済
福井支部	8月20日(土)	ウェルアオッサ 18:00～	
富山支部	8月27日(土)	富山第一ホテル 16:00～	
石川支部	8月27日(土)	ホテル日航金沢 17:00～	
太田支部	8月予定	未定	
新潟支部	9月11日(日)	万代シルバーホテル 時間未定	
東海支部	9月17日(土)	中日パレス 14:00～	
宮城支部	9月24日(土)	ホテル白萩 15:00～	
東京支部	10月 8日(土)	シーパンスホール 18:00～	
札幌支部	10月14日(金)	京王プラザホテル札幌 18:30～	
静岡支部	10月22日(土)	未定	
長野支部	10月29日(土)	未定	
関西支部	11月12日(土)	新大阪ワシントンホテルプラザ 16:00～	
鹿児島支部(設立)	11月12日(土)	未定	
大分支部	12月 3日(土)	未定	
オホーツク支部	未定	未定	
青森支部	未定	未定	
岩手支部	未定	未定	
飯田支部	未定	未定	
三重支部	未定	未定	
広島支部	未定	未定	
四国合同支部	未定	未定	

後援会

平成27年度高経TOEIC成績優秀者表彰

TOEIC公開テストで700点以上を獲得した学生に表彰状と記念品を贈呈しました。平成27年度の該当者は以下の方々です。おめでとうございます。

最優秀賞 800点以上 (学年は2015年度)		優秀賞 700点以上 (学年は2015年度)	
松本 光央さん	経済学部4年	菅池 隆太さん	地域政策学部4年
荻野 裕太さん	地域政策学部4年	西 真慧さん	地域政策学部4年
須田 祐介さん	地域政策学部4年	飯田 鍊さん	経済学部3年
菊地 彰裕さん	経済学部3年	小平 利樹さん	経済学部3年
横山 亜依さん	経済学部3年	橋本 勇太さん	経済学部3年
藤田 優輝さん	地域政策学部3年	大川実紗希さん	地域政策学部3年
小和田昌希さん	経済学部2年	片岡 力さん	経済学部2年
美甘 良夫さん	経済学部2年	笠井 康平さん	経済学部2年
吉田 和甫さん	地域政策学部2年	藤本つかささん	経済学部2年
杉本 麗百さん	経済学部1年	美甘 良夫さん	経済学部2年
サンティアゴ・マークさん	地域政策学部1年	荒木 陸さん	地域政策学部2年
		関口 幸憲さん	地域政策学部2年
		牛久侑里夏さん	経済学部1年
		水出 勝之さん	地域政策学部1年
		他2名	

※現在、今年度分の申請を受け付けています。
(提出期限 平成29年2月28日)

高経大後援会学生奨学金について

学生の学業と生活支援を目的とした給付型の奨学金制度です。給付額は授業料の3分の1相当額で、対象者は授業料減免対象者の中から、特に成績優秀な学生を事務局で選定し通知します。

白馬セミナーハウス閉鎖について

諸般の事情により、平成29年3月31日をもって閉鎖する運びとなりました。なお、閉鎖日までは通常通り営業を行う予定ですので、引き続きご利用ください。

支部総会の開催について

保護者の方を対象に、本学の現況報告や就職等に関する個別相談を行います。

支部	開催日	開催場所
関東甲信越支部	9月 4日(日)	高崎経済大学
東北支部	9月25日(日)	ホテルJALシティ仙台
東海支部	10月 2日(日)	キャスルプラザ
北陸支部	10月 8日(土)	ANAクラウンプラザホテル富山
北海道支部	10月15日(土)	札幌全日空ホテル
山陰山陽支部	10月30日(日)	ホテルグランヴィア岡山
近畿支部	11月13日(日)	ホテルグランヴィア大阪
九州支部	12月 4日(日)	ホテルクリオコート博多

※開催時間は14:00～16:00です。(関東甲信越支部のみ13:00～15:00です。)

※各支部総会開催約1ヶ月前に通知をお送りいたします。

※四国支部の方には、山陰山陽支部の通知をお送りいたします。

(交互に隔年開催のため)

●お問い合わせ等＝後援会事務局:電話027-344-7902

学生数

出身都道府県別 学生数(学部)

平成28年5月1日現在、
()内は女性数で内数

都道府県	学生数	都道府県	学生数	都道府県	学生数
北海道	183 (36)	石川県	54 (18)	岡山県	8 (0)
青森県	81 (28)	福井県	20 (11)	広島県	9 (1)
岩手県	124 (39)	山梨県	57 (14)	山口県	6 (2)
宮城県	137 (28)	長野県	344 (108)	徳島県	2 (0)
秋田県	72 (28)	岐阜県	35 (9)	香川県	7 (1)
山形県	97 (28)	静岡県	171 (41)	愛媛県	15 (5)
福島県	120 (31)	愛知県	108 (15)	高知県	2 (1)
茨城県	205 (60)	三重県	30 (6)	福岡県	12 (3)
栃木県	234 (70)	滋賀県	3 (1)	佐賀県	3 (1)
群馬県	1,166 (498)	京都府	6 (3)	長崎県	11 (3)
埼玉県	184 (46)	大阪府	9 (2)	熊本県	4 (0)
千葉県	41 (9)	兵庫県	17 (6)	大分県	6 (1)
東京都	41 (10)	奈良県	1 (0)	宮崎県	7 (2)
神奈川県	19 (2)	和歌山県	3 (0)	鹿児島県	7 (1)
新潟県	218 (81)	鳥取県	6 (4)	沖縄県	11 (2)
富山県	77 (24)	島根県	7 (1)	国外	94 (44)
				合計	4,074 (1,324)

(国外の内訳)

国名	学生数	国名	学生数
中国	81 (38)	ミャンマー	1 (1)
韓国	4 (0)	ドイツ	1 (0)
マレーシア	4 (4)	台湾	1 (1)
ベトナム	2 (2)		

今回の表紙

設立20周年を迎えた地域政策学部の学部長、学科長及びそのゼミ生に集まってもらいました。